２０２６年１１月3日（火）

老球の細道９５１号

立て！　立つんだジー！　明日じゃなくて今日のジー！

会津バスケットボール協会　　室　井　冨　仁

幼少の頃大好きだった漫画家のちばてつや氏が先日８７歳で亡くなった。７０年間漫画家として活動し文化勲章も受賞している。数ある作品の内１９６８年に発表された「明日のジョー」は社会現象にまでなった「立て、立つんだジョー！」は名言である。

私は小学校の頃から「少年マガジン」「少年ジャンンプ」の週刊誌、月刊誌の「まんが王」などを定期的に購入し読んでいた。この頃読んでいた漫画から「正義」「根性」「努力」などを何気なく学んだ。特にちば氏の野球漫画「ちかいの魔球」、戦争漫画「紫電改のタカ」なども本気になって読んでいた。その後「明日のジョー」が発表され、負けても諦めないで何度も挑戦することを学ぶことができた。

今、中学生を指導させてもらっている。皆、やる気があって、挨拶も良くできる素直な生徒達ばかりである。なんとかこの子たちを上手にして、バスケットを好きにさせ、高校や次のカテゴリーに引き継いでやることが今の私のミッションである。

長い間コートに立っていなかったせいか指導がうまく行かないことが毎回である。見本がうまくできない、予定したメニューが全部できない、理路整然と説明できない等々。練習が終わり、家に帰って来ると後悔ばかり。ちばてつや氏同様生涯現役をスローガンにしているのだが落ち込むばかり。そんな時「明日のジョー」が最近また話題になり、少年の頃の「諦めないで立ち上がる」姿勢を思い出された。あいにく今は７２歳。「立て！立つんだジー（爺）！」、「明日のジョー」ではなく「今日のジー」。現在デイフェンスの指導に燃えている。指導のコンセプトは次の通り。

◆バスケットボールの面白さはオフェンスにあるが、ゲームの勝負の面白さはデイフェンスにある◆デイフェンスの第一の目的はボールを奪うことである。それができなければ、プレッシャーをかけ、相手に思うようなプレイをさせないでターンオーバーを誘発させるか、タフショットに導くことである◆プレッシャーデイフェンスとは、オフェンスに対して「インライン」を越えて守る事であり、オフェンスに自由にプレイさせないことである。プレッシャーとヘルプは堅実なデイフェンスにおける双子の兄弟である◆デイフェンス指導において重要なことは守り方を学習させる。理解した後はただひたすらがんばらせる。デイフェンスは休みのない作業なので絶対に休ませない。そのような泥臭さが強いデイフェンスを養成する◆ボールマンのデイフェンスは「面」で守る。隣のプレイヤーと協力して「壁」で守る。チーム一丸となってゴールを囲む「城壁」を作って守る◆「握りこぶしの原理」。５人が一つになった時に最高の力を発揮する◆デイフェンスはボールを扱わない。それゆえに誰でも上手になれる。どんなチームでも強くなれる。

先日、高校バスケット女子 WC 県大会で福島西が光南を破りアップセットを果たした。まさにデイフェンスの勝利で、中学生に見てもらいたい素晴らしいデイフェンスだった。